

核データ国際会議準備委員会第5回会合議事録

日 時 昭和61年2月4日(火) 13:30~18:00
場 所 原研本部 第5会議室
出席者 北沢, 木村, 川合, 菅原, 若林, 水本, 五十嵐

配布資料

- (1) 核データ国際会議準備委員会第4回会合議事録
- (2) 科学と技術のための核データ国際会議国内組織委員会規程(案)
- (3) 1988年核データ国際会議について(要旨), (1986年1月28日)
- (4) 核データ国際会議国内組織委員候補
- (5) 核データ国際会議プログラム部会員候補
- (6) 核データ国際会議企画運営部会員候補
- (7) 核データ国際会議共催/後援/協賛/賛助候補機関
- (8) J. Rosen氏からの手紙
- (9) M. Sowerby氏からの手紙
- (10) K. Böckhoff氏からの手紙
- (11) N. Tubbs氏からの手紙
- (12) 1988年核データ国際会議準備委員会の答申(案)

議 事

I. 前回議事録確認

配布資料(1)により確認を行い, 了承された。

II. 経過報告

科学技術庁の立場について検討し, NEAと共に後援とする案を持って12月17日に担当官と話し合った。しかし, なお Harwell 会議における UKAEA の役割 (joint organizer) などを知りたいことのことであった。これらの件について12月末に NEA に手紙を書き, 問い合わせた。

NEAからは1月20付の返事（配布資料(8)）があり、NEAはSponsorでもCooperationでも良い、とのことであった。UKAEAの件はHarwell研究所を指しているだけで、UKAEAが特に寄与をしたのではない。科学技術庁にはこれらのことを伝え、NEAと共に後援（Cooperation）してもらうことで合意した（配布資料(3)）。

NEAからは準備のためのスケジュール表（配布資料(11)）が送られて来た。またM.Sowerby氏とK. Böckhoff氏からそれぞれ準備の際に注意すべきことを助言してきた（配布資料(9), (10)），ことが紹介された。

第五企画に依頼した経費見積の返事があったが、過大評価であった。しかし、それを基に物理部事務室で調整を行い、適切な見積を作った。また、原子力産業会議を訪問し、主旨説明と協力依頼を行い、内諾を得た。

Ⅲ. 国内組織委員会規程（案）

前回の議論を踏まえ、規程（案）を修正した（配布資料(2)）。組織委員会内にプログラム部会と企画運営部会を置く。

シグマ委員会運営委員会で、原子力メーカーを代表して原産を組織委員候補とする案が出たことが紹介されたが、原子力メーカーは残すべきだとの意見が多く、当委員会としては原子力メーカーを含めた案を提案することにした。また、プログラム部会と企画運営部会の部会員についても検討し、若干の修正を行った。これらを当委員会案として提案するが、最終的には原研に一任することにした（配布資料(4), (5), (6)）。プログラム部会員についてはテーマとの関係を明確にするような表し方をすることにした。

協賛候補機関の中に測定器メーカー等を加える件につき、水本氏が調べてきた数社と共に建設5社も入れるべきであるとの意見が出た。水本氏の調査の他に適当な会社があれば加える。

Ⅳ. シグマ委員会への答申（案）の検討

配布資料(12)により検討を行った。形式、字句などの修正を行い、後日各委員に配布し、承認を得た後シグマ委員会に答申する。

この準備委員会は今回を持って解散する。